



ディーラーメカニックとプロライダーが共に挑んだ
鈴鹿8時間耐久レース

日本最大のバイクの祭典として、注目度の高い鹿鹿8時間耐久ロードレース。「8耐」の愛称で親しまれている同レースは、今年で34回目を数える歴史あるレースだが、その8耐でBMWでの参戦に成功するチームがある。

02
01. マシンは無事車両に届くなどという大發が果たし、ピットロードで待ち受けるマスルーと共に飛びを分ち合う幸手選手。チーム一、ラスの\$1000000は、燃費があまり良くなったため、ライダー交代を8回行う9ステップで敗戦をとった。そのため最終ステイントレースはスキートを担当した寺本選手が務ることになった。



02. チームシャツに身を包む、二人のナインドット。右はBMW車の重鎮、ジャーナリスト山田 純氏。チーム・トラスにはスーパーバイザー的な立場として参加。左は、バーツメーカー BITO R&D 代表の美藤 定義。チーム・トラスのS100RRは、BITO

アーチャーの矢印は、DFO R&D製ホイールJB-MAGTANを使用。また、スイングアームの耐久用モードファイも同社で行った。

たことを表示。直前まで 17 位を走行していたが、修理時間が 10 分を切ったところで、2 台を抜き去った。
04、ゴールの後はお祭り騒ぎ。チームのクルー、ほぼ全員がパールに叩き込まれていた。これほど気分の良い行事もないのだろう。

05. チーム・トラスのS1000RRのエンジンは完全にノーマル。マフラーをアラバロヴィッチのレース用に交換し、インジェクションのリセッティングを施しただけだが、速さは他車に付け取らない。トップスピードにはコスモスズバ(トリシティ)。

ABSはキンシルセされるが、DTCは活用。DTCはレースでも有効だ。ホイールはBITO R&D製で前後16.5インチ、タイヤはダンロップを使用する。スイングアームはノーマルをカーボンで構造。外装類はト

ラスのフルドライカーボン。トラスはスキーカーのモトGPマシンの外装も手がけている。ステップはペビーフェイス製で、リヤショックはWPを装着している。

06. ゼッケン135のS1000RRが無事フィニッシュラインを通過したのを見届け、ピットローンのプラットフォーム上で喜びを爆発させるクルーザー。左の人物はチーム監督武藤昇氏。

アドバイザーとなり、共に戦ったプロライダーたち

